

## 【事業実績】

### (1) 人材育成事業

最先端の技術を持つ業者やデジタルデータをまちづくり等に活かす実践の先駆者による実践的研修会を、合計 32 回実施し、のべ 300 人程の参加を得た。主に実行委員会組織員と地域住民を含む関係者に知見が蓄積された。

①-1 企業・NPO による技術研修会・情報交換会：ニコン、OMDS、NPO フィールド、エリジオン、村田製作所他

①-2 橋本雄太氏 (IIIF 画像のワンストップ生成技術の活用)、是住久美子氏 (Wikipedia town) による研修会



「ウィキペディアの編集作業をまちづくり協議会や地域の様々な人(商店や住民)が参加して行うと地域への愛着が生まれたり世代を超えた交流に繋がらないかと期待を感じた。」 (参加者の声)

■動きを 3D 化 (Volumetric Video) ■Wikipedia town の研修会

② 展示活用ワークショップ：京都先端科学大学の学芸員課程の学生 4 名が地域調べとデジタル活用。



「3D の建築案内が素敵でした。」  
「文化博物館の内部構造の細部まで見ることができ、近代建築のすばらしさをより深く感じることができました。」  
「空間再現ディスプレイに驚いた。三条通をもう一度歩いてみようと思った。」 (参加者の声)

■裸眼で立体視するコンテンツ ■来場者の前で成果紹介

③ 成果報告：人材育成事業・データストック事業の成果を一般公開の催事で報告した。

○シンポジウム「平安宮豊楽院の瓦の意義とデジタル化」(2023 年 10 月 15 日、参加 41 名)

○報告会「真宗大谷派染織品調査報告会・研究会」(2004 年 1 月 24 日、対面参加 28 名、動画配信視聴 64 名)

### (2) データストック事業

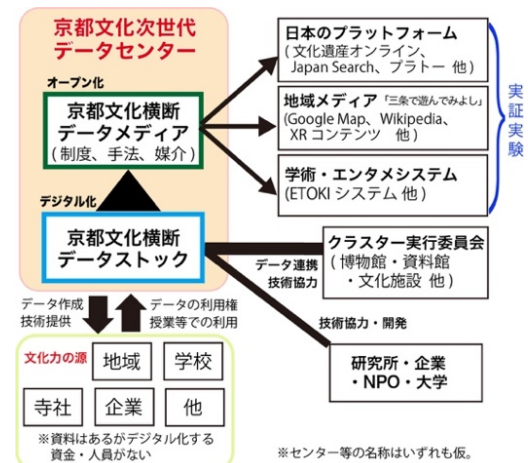
京都の文化力の源となり、オープン化事業等の素材となるデジタルデータを合計約 3 万カット、生成した。本事業の目的たるデータセンター本格稼働に向け、他組織の資料を中核館に持ち寄ってデジタル化する実践を行い、フローと課題を明確化した。

○地域資料：個人宅に所在していた京都の近代洋画壇の牽引者・太田喜二郎の日記 (24 冊、9312 カット)、平安京跡出土考古資料 (2188 カット)、古文書・国書類 (20 件、180 カット、IR127 カット)

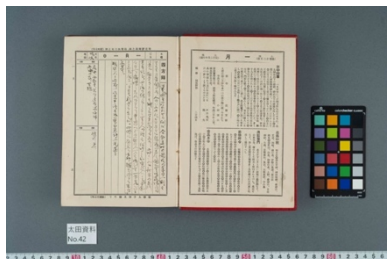
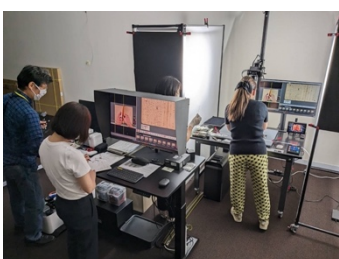
○写真資料：利用の難しかった黒川翠山撮影ガラス原板 (937 件)

○学校資料：京都市内の学校で利用の教育資料 (115 件、1108 カット、高精細 3D:15 点)、美術資料 (22 件、924 カット)

○企業資料：1555 年創業の千總に所蔵される古文書類 (1753 件、4887 カット)、写真 (650 件、3120 カット) 他



本事業の概念図

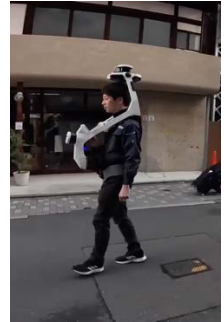


■データセンター(仮称)での作業 ■撮影データの事例

■近赤外線撮影

■高精細 3D スキャナ

○まちなみ資料： エリジオン社の 3D 点群計測技術により、重要文化財建造物やまちなみを丸ごと 3D 化。建築等の大型素材の作業が理解でき、他建築への応用準備ができた。但し小型模型の記録手法は課題が残った。



■重要文化財 旧日本銀行京都支店 ■点群データ化したまちなみ 計測わずか 22 分 ■計測作業

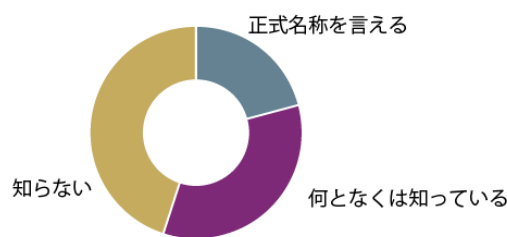
### (3) データオープン化事業

データストック事業等により得た各種データ及びその活用のあり方もオープンするため、学芸員・地域住民・企業等での議論の上、内容を選択・編集し、公開した。なお事業は概ね、A)紹介・公開すべき情報が何かについての調査、B)それに基づくコンテンツ内容の検討・制作、C)制作物の検討の 3 ステップでおこなった。

A) 調査 (2023 年 10 月 12 日-14 日:回答 50 人、10 月 21 日・22 日:67 人、11 月 4 日・5 日:104 人)



#### ① 京都文化博物館別館はもともと何の建物だったか



■博物館前の催事に合わせ調査 ■結果1 博物館前の調査でも知らない人は多い ■調査結果報告書

B) 制作物 (文化遺産オンラインの他、以下のウェブサイト等に掲載した。)

○「三条のシンボル 旧日本銀行京都支店の 3D 動画」: 3D の特徴を活かして建物を紹介する動画の公開。

○「みんなで ETOKI 洛中洛外図屏風」: TOPPAN 社開発の ETOKI ON LINE を用いたまちなみ WS を公開。

※公開先: いずれも京都文化博物館 Youtube Channel [www.youtube.com/@user-iq7du5wn6m](https://www.youtube.com/@user-iq7du5wn6m)

○「三条デジタルマップ」: 実行委員会各組織の特徴を活かし、歴史・地域・学校・企業等に関するデータを公開。

※公開先: <https://map-sanjo.jp/history-map> (今後、京の三条まちづくり協議会のサイトへ移行予定)

○「旧日本銀行京都支店のメタバース」: NTT コノキュー提供のフリーのサイト(DOOR)を利用したパイロット事業。

※公開先: DOOR 内に作成したルーム <https://s.door.ntt/TPgcoGi>

C) 制作物の検討

○ シンポジウム「三条通の近代洋風建築群-デジタル技術に触れて楽しむ-」(2023 年 11 月 14 日、参加者 35 人)



■シンポジウムの様子



■記録集

「DXによって収蔵資料や建物そのものにアクセスしやすい環境が広がっていくことは、とても良いことだと素直に感じた。そして、それらの収蔵品が「まちの財産」であり、それを広く活用することで「自分たち自身の財産」にもなりうるという実感を得た」  
(参加ライターの言葉)